

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 37号

2013/02/25 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：前週より更に低いレベルで推移。1,400ポンドを割り込むかが注目

①週最高：LDN市場£1,434 / NY市場\$2,139 (共に2月22日) 先週比 LDN+£2/NY-33
②週最低：LDN市場£1,408 / NY市場\$2,113 (1/30、1/28) 先週比 LDN-£10/NY-\$31
週内差額 (①-②)：LDN市場£26 / NY市場\$26

【2月18日(月)】ロンドン続落、NYは休場

ロンドン市場の5月きりは、9ポンド(0.6%)安の1409ポンドと続落。一時は、2012年4月以来の安値となる1408ポンドを付けた。良好な供給見通しが市場を守勢に立たせた。

ニューヨーク市場は、ジョージ・ワシントン生誕記念日の祝日のため休場。

ディーラーによると、西アフリカでは乾燥した天候が観察されていたものの、ミッドクロップがほぼ好天に恵まれたという。欧州のアナリストは「記録的なミッドクロップは確かだが、最近は少し乾燥していたので3月後半になるまで分からない」と話した。輸出業者が18日に試算したところ、主要産地コートジボワールの港湾に着荷するココアの量は、昨年10月のシーズン開始から2月17日までに約90万4000トンに達した。前年同期は93万7000トンだった。

【2月19日(火)】ロンドン一時10か月ぶり安値、NYも続落

西アフリカ諸国のミッドクロップの収穫が、過去最高規模に上る可能性があるとの見方を背景に、両市場ともに続落した。

ロンドン市場の5月きりは一時1403ポンドと2012年4月以来、10か月ぶりの安値まで下落。終値は1ポンド(0.07%)安の**1408ポンド**だった。ニューヨーク市場の5月きりは25ドル(1.2%)安の2119ドルで終了。取引時間中には2117ドルと、12年6月以来の安値に沈む場面もあった。マレックス・スペクトロンの農業製品オプション部門の責任者、エリック・シブリ氏は「ミッドクロップの開花と着さやは非常に良好なようだ。ただ一部で、さやの生存率が良くない可能性もある」と指摘した。

【2月20日(水)】NY、続落、西アフリカでの収穫増観測で

ニューヨーク市場のココア先物は、西アフリカ地域におけるミッドクロップの収穫高が天候に恵まれ過去最大規模に達する可能性があるとの観測に圧迫された。ニューヨーク市場の5月きりは4営業日続落し、6ドル(0.3%)安の2113ドルで引けた。一時は2105ドルと、2012年6月以来の安値に下落した。カメルーンのココア・コーヒー委員会(NCCB)によると、同国のカカオ豆輸出は1月末までの5カ月間に前年同期比約15%増となった。

一方、ロンドン市場の5月きりは5営業日ぶりに小反発し、5ポンド高の1413ポンドで終了した

【2月21日(木)】両市場とも上伸

ニューヨーク市場はポンドの対ドルでの値動きに呼応する形で反発。5月きりは、2番ぎりとして2012年6月25日以来の安値2102ドルまで下落した後、反発に転じ、前日終値比20ドル(1%)高の2133ドルで引けた。ロンドン市場は続伸。5月きりは、一時下落したものの回復し、15ポンド(1.1%)高の1428ポンドで終了。前日に付けた10カ月ぶりの安値1403ポンドを上回った。

【2月22日(金)】両市場とも続伸

ニューヨーク、ロンドン両市場ともに続伸した。

ニューヨーク市場5月きりは6ドル高の2139ドルで終了。ロンドン市場5月きりは6ポンド高の1434ポンドで引けた。

2、カメルーンのカカオ豆輸出、前年比15%増(12年8月～13年1月)(2/20)

カメルーンのココア・コーヒー委員会(NCCB)が19日公表した統計によると、2012年8月～13年1月の同国カカオ豆輸出量は17万2135トンと、前年同期(14万9793トン)比で約15%増加した。輸出増の原因については明らかにされていない。

1月の輸出は3万7004トンで、12月(4万1136トン)より減少したが、前年同月(1万7803トン)は上回った。カメルーンはカカオ豆生産で世界5位。

3、コートジ、ミッドクロップ期のカカオ豆収穫に遅れ=厳しい乾燥天候が影響(2/20)

コートジボワールのカカオ豆主産地では、ミッドクロップ期(4～9月)の早期収穫が遅れる恐れが出ている。非常に厳しい乾燥シーズンに見舞われ、豆の品質に影響が出ているため。農家とアナリストが18日、明らかにした。

乾燥シーズンは通常、11月半ばから3月まで続くが、今回は乾燥シーズン入りが遅れ、降雨が12月まで続いた。しかし、強い季節風ハルマツタンの影響で気温が上昇し、この2カ月間はほとんど雨が降らなかったため、土壌と新たなさやが乾燥し、ミッドクロップ期の生育に遅れが出ている。

コートジボワール全体の4分の1のカカオ豆を生産する中西部ダロアの農家は、乾燥天候でミッドクロップ期の収穫開始が遅れるとの見通しを示した。

ダロア郊外の農家は「雨が降らず、気温も高過ぎる。ミッドクロップ期は、小さなさやの多くが乾ききってしまった」と説明。さらに、「ミッドクロップ期の4月と5月は、カカオ豆は多く実らないだろう。

乾燥天候の影響で、今は樹木に十分なカカオ豆の実がついていない」と語った。

西部ブアフレの農家は、豆の品質が影響を受け始めたと指摘。ある農家は「乾燥シーズンが厳しく、メインクロップ期の終盤の収穫で、カカオ豆の酸度が上昇したと思う。豆のサイズも小さくなってきている」と説明した。東部アベングルでも、同様の生育状況が報告されている。

4、ガーナ産カカオ豆、2月7日までに58万1505トン集荷(2/21)

ガーナのメインクロップのカカオ豆の集荷数量がシーズンが始まった10月12日から2月の7日までの合計で58万1505トンとなり、前年の同期間と比較して17%の減少となったことがカカオ産業の監督庁であるココボードの統計で判明した。

週間の集荷数量は、2月7日に終了した17週目は1月24日の終了した15週目と比較して20,000トン以上も集荷数量が減少し7,135トンであった。

5、ブラジルメインクロップ 着荷数量前年対比21%増加(2/20)

5月1日から2月17日までのブラジル全体のカカオの港湾倉庫への着荷数量（輸入も含む）が昨年と同時期比較で21%も上昇していることがバヒア商業組合の発表した統計で判明した。

先週の着荷は、カーニバルホリデーによる影響で営業日が2日から2日半程度だったことが影響し非常にゆっくりとしたペースであった。2月10日までの先々週に関しては、バヒア商業組合は休日の為、着荷数量の発表を行わなかったが、2週合計でのブラジルの主要な産地であるバヒア週からの集荷合計は62,547袋（≒4,065トン）であった。他の週からの着荷数量は7,808袋（≒507トン）であった。この2週間の間には輸入での入荷はなかった。

ブラジルは2011/2012シーズンではカメルーンと並んで世界第5位のカカオ生産国であった。1990年代の前半には世界第2位のカカオ生産国であったが、国全体のカカオ農園が天狗巣病により大きなダメージを受け収穫数量が激減した。

現在、ブラジルは2012/2013シーズンのメインクロップの収穫中である。

2012/13 着荷数量 2012年5月1日～2013年2月17日 *単位 60kg袋

	<u>先週</u>	<u>合計</u>
バヒア州	30,793	2,773,749
その他の州	5,441	919,966
その他の国	0	334,599
合計（袋）	36,234	4,028,314
合計(トン)	2,174	241,699

2012/13 着荷数量

2011年5月1日～2012年2月17日

単位 60kg 袋

	<u>週間</u>	<u>合計</u>
バヒア州	17,992	2,041,055
その他の州	12,547	678,854
その他の国	0	607,605
合計(袋)	30,539	3,327,514
合計(トン)t	1,832	199,651

6、アジア市場：バターは下落傾向は継続、パウダーの需要も弱い値段は変わらず。

- ・アジア産ココアバターのレシオは今週 1.80～1.85 で案内された。下落傾向であるが急激に、また大幅に下がっているという状況ではない。
- ・ココアパウダーの需要は引き続き強くないものの、バターの値下がり分を補てんしようといくつかの磨砕業者は案内価格を少し上乘せし始めている。
- ・イースター向けの需要の買付けも終わり、市場は落ち着いており急激な変化はない状態であり、チョコレートメーカーはバター価格の下落をもう少し待てる余裕がまだある状態のようだ。

***先週から特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて開始しております！！**

こちらは何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp